

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2024年(令和6年)1月25日号 No.1947

目次

■ ウズベキスタンの鉄道事情と近年の開発動向	1
■ トピックス	9
日本カザフスタン・ビジネスフォーラムを開催／9	
楽天、キーウにオフィスを設立／9	
人民元、モスクワ取引所での取引量トップ／9	
米、UAE海運会社に制裁／9	
ロシア駐日大使にノズドレフ氏／9	
2023年のロシアの経常収支、大幅減／9	
中国、ロシアからのエネルギー輸入 過去最高／10	
川崎重工業と伊藤忠商事、トルクメン公社と覚書署名／10	
豪米英、サイバー攻撃でロシア人男性に制裁／10	

ウズベキスタンの鉄道事情と近年の開発動向

(一社)ロシアNIS貿易会 ロシアNIS経済研究所
嘱託研究員 齋藤 竜太

はじめに

今号では中央アジア地域に目を転じ、ウズベキスタンの鉄道開発の現状および近年の動きについて概観する。近年、ウクライナ情勢を受けてロジスティックという視点から中央アジアへの関心が高まっている。中央アジアすべての国と国境を接し、経済自由化に伴い注目を浴びるウズベキスタンは、ロジスティック開発の面で今後一定の役割を担う可能性がある。本稿ではウズベキスタンを中心に見ていくが、周辺諸国の動向についても触れる。

1. ウズベキスタンの鉄道事情

ウズベキスタン鉄道(ウズベキスタン・テミル・ヨルラリ)はソ連解体に伴う独立後、ウズベキスタン国内を走る鉄道を引き継ぐ形で国営企業として設立された。その後2001年に株式会社化され、ウズベキスタン財務省が100%の株主となった。現在、一部事業を民間に移管し、サービスの向上および料金の適正化を図ることが検討されている。

2022年の貨物取扱量は約1億t、うち国内輸送が約6,000万t、国際輸送が約4,000万tとなっている。トンキロベースでは2015年の229億t・kmから2022年は250億t・kmと、漸増にとどまっている。